

地域・創生 防災は活動の入口

10月12日、JIA 本部元理事で神奈川地域会長、和歌山災害対策委員長を歴任された森岡茂夫氏の講演会が開催された。森岡氏は、2004年にJIA 本部に災害対策委員会を立ち上げ、以後10年間で8回、震度6弱以上の地震発生時に支援活動を行うなどの災害対策に取り組んできた。2013年に和歌山へUターンした後、その経験を生かした防災活動をまちづくりの入口にしようと思い「4Action Plan」と名付けた下記の4つの災害対策活動を実践したという。

1. 南海トラフ巨大地震の津波を想定した

「逃げ地図」づくり

沿岸の住民が障害者の歩行速度で、3分間で逃げることができる高台への逃げ道を提示した。

2. 大地震に備えた「耐震改修」の推進

行政が補助する耐震改修が進んでいない中、各家庭が導入しやすい耐震ベッドに助成金を出す方が効果的であることを行政に進言した。また、耐震建具や感震プレーカーの提案なども行った。

3. 地域材を利用した「木造仮設住宅」の提案

JIA、建築士会、事務所協会が協力して地元で豊富に供給できる紀州材を使った仮設住宅を提案した。

4. 災害時に自治体との協力関係を盛り込んだ「支援協定」の締結

和歌山県下30のすべての自治体と結んだ。それぞれの自治体にJIAを認知してもらい信頼してもらうことができた。

以上、どれも地域の特性や現場の実情に即した活動であり、10年以上に渡り各地で被災

地の実態を体験してきた森岡氏ならではの提案だと思う。また、このAction Planは、同じ紀伊半島の太平洋沿岸で隣り合っている三重県にとっても大いに参考になる防災プランだと思う。

最後に森岡氏は、「なぜ災害対策に力を入れるのか?」の問いに、「JIAは他の団体と違い全国規模で活動ができる。先輩達が50年前から防災に力を入れてきたお蔭でJIAには災害対策の経験とノウハウが蓄積している。地域会レベルで防災活動を推進することで住民や行政からの信頼を得ることが大切」と締めくくられた。

村林 桂 (JIA 三重) |
村林桂建築設計事務所

